

みなさん、こんにちば。日本共産党（の〇〇〇〇事務所）です。本日は、TPP問題について訴えにあがりました。（ただいまTPP参加反対の署名を集めています。ご協力をお願いします）野田首相は11日、TPP交渉参加にむけて関係国との協議に入ることを表明しました。日本中に広がった反対の世論と運動に耳をかさず、国民への説明もありません。政府がTPP参加に踏み出したことに、日本共産党は厳しく抗議し、その撤回を求めています。

（※ただいま、TPP反対署名を行っています。ぜひ、ご協力ください）

みなさん。

TPPとは、農産物を含め、すべての関税をゼロにするものです。アメリカは、コメの輸入自由化、医療、食品、労働、建設業など、あらゆる分野の例外なき関税撤廃を日本に要求しています。いま必死に復興をめざしてがんばっている東北の被災地をはじめ、日本の食料の安定供給を土台から壊すこととなります。TPPへの参加が、国民のくらしと経済に破壊的な影響をあたえることはあきらめられません。

食品の安全や医療保険などの「規制緩和」をもとめるアメリカの対日要求は、日米首脳会談の直後のアメリカ側の発表でも浮き彫りになりました。「例外なき関税撤廃」について、外務省は、これを否定する異例のコメントを発表しましたが、結局は、雇用と内需など、日本経済全体への深刻な打撃となります。国会では、日本共産党などが指摘した数々の問題点について、野田首相はなんら答えることができませんでした。にもかかわらず、野田首相はハワイでの首脳会談で、まるで「手みやげ」のように協議参加を表明しました。日本国民の批判や懸念よりもアメリカの要求を優先する、こうしたアメリカ言いなりの暴走は、国民犠牲の亡国政治といわざるをえません。「TPPノー」の声をいっそう強めようではありませんか。

（※ただいま、TPP反対署名を行っています。ぜひ、ご協力ください）

みなさん。

TPP交渉を進めれば進めるほど、あらゆる関税をなくすというTPPの原則をタテに、アメリカからとんでもない要求が押しつけられることは明らかです。みなさんは、アメリカが日本に対して、どんな具体的な要求をおこなっているか、ご存じでしょうか。

食の安全では、狂牛病への感染が心配されるアメリカ産牛肉の輸入や残留農薬の規制緩和を求めています。そればかりか、大腸菌が検出された冷凍フライドポテトを日本が拒否していることさえ非難しています。医療では、お金のあるなしで受けられる医療に差をつける混合医療制度の導入を求めています。これが拡大すれば、保険証1枚あればどこでも医療が受けられる日本の国民皆保険制度が破壊されてしまいます。野田首相がいくら医療や農村を「守り抜く」と、ごまかそうとしても、国民との矛盾はいよいよ広がらざるを得ないでしょう。

（※ただいま、TPP反対署名を行っています。ぜひ、ご協力ください）

みなさん。

TPP反対の声は急速に広がっています。農漁民、医療関係者、労働組合、消費者団体をはじめ、広範な人たちがたたかいたちあがっています。TPP参加をやめさせるためには、これからのたたかいが重要です。日本共産党は、TPP参加を何としても阻止するために、国民的な共同をさらにひろげるとともに、その一翼を担って全力をあげて奮闘します。

日本共産党福岡県委員会は、きたる12月8日、木曜日の午後6時から、博多駅前の朝日ビルで、TPP問題緊急シンポジウムを開催します。「TPPターゲット」という本の著者で、党中央経済・社会保障政策委員会副責任者の佐藤洋（さとう・ひろし）さんが基調報告を行います。農業者や医療関係者らもパネリストとして駆けつけます。ぜひ、緊急シンポジウムにご参加下さい。

（※ただいま、TPP反対署名を行っています。ぜひ、ご協力ください）

最後に、TPPをはじめ、原発問題、福祉と子育てなど、真実を伝え、くらしに役立つ日本共産党の「しんぶん赤旗」のご購読をお願いして訴えを終わります。ご協力ありがとうございました。